

## [第3委員会]

【委員長】大畑 勝俊

【副委員長】遠藤 章夫

【委員】白川 重敏 遠藤 久 野田 美枝子

津国 護 松原 幸子

## 17 第127回市民あるけあるけ運動

日 時：平成30年11月23日（金・祝） 9:30 受付開始、10:00 スタート、14:45 ごろ解散

参加者：立川市民49名、スポーツ推進委員17名、スポーツ振興課職員5名、看護師1名

天 候：快晴

気温 集合時 約8℃、昼食時14℃、解散時14℃

風速2～3m/s

コース：JR小作駅近くのさくら児童公園発、JR拝島駅近くの陸公園まで。認定距離11km。

ルートの紹介

### (1) スタートから第1休憩点

今回のあるけも3班の構成です。開会式の後、大畑委員の指導で準備体操を行い、10:00 ちょうどに第1班がさくら児童公園を出発。カード整理班は、西砂学習館に向かい、記録集計と表彰状の作成です。公園から南に向かって歩き、新奥多摩街道に突き当たり、しばらく街道沿いに歩いた後、南に向かって右折し、河岸段丘の坂を下ってゆきました。奥多摩街道を渡り、小作台地区をしばらく歩くと、今回最大斜度の坂をおり、一峰院というお寺にでました。ここからはのどかな田園風景の中、まっすぐに多摩川まで平坦な道路です。多摩川に突き当たり、土手沿いに進むと、河原の運動場には少年野球チームの練習風景が見られました。土手沿いは時折ジョギングをしているランナーに道をゆずりつつ、正面遠くに見える羽村堰の給水塔目指してあるけあるけ。しばらく歩くと羽村市屋外プールが左手に見えてきました。ちょうど土手に上がってから700mの地点を示す標識あたりを上がってゆくと再び奥多摩街道に合流します。今回のコースでおそらく一番の難所。歩道が狭く、車の通りも激しい箇所です。一列になり、注意しつつ羽村堰を目指します。ほどなく、羽村堰入口の交差点。車に注意しつつ信号を渡り、本日最初の休憩点である羽村堰に到着。玉川上水の源流です。玉川兄弟の像付近の休憩所で15分ほどの休憩をとりました。

### (2) 第1休憩点から昼食場所

概ね11:15に羽村の堰を出発し、昼食場所を目指しました。まずは堰のトイレを過ぎたあたりの羽村堰下橋を多摩川右岸に渡りました。そのまま土手を降り、南に進むと舗装道路に突き当たります。ここからは、多摩川を左手に見つつ緩い上り坂が続きます。道路は車の通りは少なく、歩道も幅広く歩きやすいのですが、延々と上りが次の羽村大橋付近まで続きました。羽村大橋の道路にたどり着くと、やっと上りに別れを告げて平坦な道に切り替わり、ほっと一息です。多摩川左岸の運動場群をみつっ一直線の道を進みます。遠くに福生駅前にある大手スーパーの赤い文字が見えてきました。だんだんと大きくなってゆきます。もうじき永田橋です。永田橋手前から下り坂になるのですが、このあたりから歩道がなくなるので、再び1列縦隊で進みました。小さな採石場あたりが永田橋たもとです。ここから永田橋を渡り再び多摩川左岸にでました。橋を渡り切って左に曲がり、田村酒造に向かいます。ちょうど堰上明神の秋祭の最中なのか、明神には人が集まり、カラオケの歌声が聞こえてきました。向かって正面の白壁が田村酒造です。田村酒造は休業のせいかな人は見かけませんでしたが、敷地内に入ることができ、広大な敷地に丁寧に剪定された植木、さらに、かつて幕府から特別に取水権を得て玉川上水から引き込んだという水路を眺めつつ、屋敷を後にしました。少し福生駅方面に向かい、玉川上水と奥多摩街道を渡るとそこは、かつての目抜き通り。整備された道をさらに北に進んで昼食休憩場所の長沢公園です。ちょうど12:00ごろに到着し、30分の昼食時間となりました。

### (3) 旧ヤマジュウ田村家住宅見学

ちょうど、長沢公園の隣が田村家住宅で、福生市の文化財として平成 27 年から一般公開されています。国の有形登録文化財にも登録されています。今回のあるけでは趣向を凝らし、この見学を盛り込みました。福生市にお願いし、当日は職員・ボランティアの方に説明を依頼しておいたのです。各班で説明を聞き、施設を見学しました。この住宅は明治 35 年に建てられたものですが、平成 24 年まで田村家の方が居住していたそうです。今でも建設当時使われていた材料が残っており、文化財として重要な資料とのことです。平屋建ての母屋と 2 つの土蔵が含まれています。今は懐かしい幅広の縁側と、意外にも近代的なトイレの印象が強く残っています。ちなみにヤマジュウとは屋号だそうです。



### (4) 見学から第3休憩点



おおよそ 30 分の見学を終え、1 班から後半のスタートです。再び永田橋まで戻り、橋下をくぐって多摩川左岸沿いの柳山公園を進みます。公園内の敷地は落ち葉とドングリで覆われていて、歩くとカサカサ音がしました。ここからはずっと、多摩川に沿って公園になっています。柳山公園を抜けると福生市市民プールが左手に見えてきます。プールを通過すると次は多摩川中央公園に入ります。ここでは、左手の土手を上がり、時計台のある田園公園広場に出ました。ここが今回最後の休憩点です。

### (5) 第3休憩点からゴール

13:50 ごろ田園公園広場を出発し、一路ゴールを目指しました。多摩川中央公園に戻り、整備された芝生と自転車道を拜島方面に進みました。五日市線の鉄橋手前で土手を超えて一般道に出ました。鉄橋突き当りを左折し、広い通りまで出ます。通りを右折し、福生団地を右手に見つつ、まっすぐ陸橋方面に向かいました。陸橋東の交差点を左折すると拜島駅方向の道です。実は、陸橋東交差点近くには石川酒造の工場があるのですが、わき目も振らずゴールを目指しました。

間もなく、陸公園の入り口が見えてきました。先に到着した中野委員が盛んに手を振って待っていてくれました。到着！

### 表彰

3 班とも無事に完歩です。看護師のかたの出番もなく、元気に歩ききりました。時間もほぼ予定通りで 14:20 ごろには全員到着していました。

さて、カード整理班の厳格な計算によってあるけの距離を集計した表彰者の発表と、表彰状と記念品の授与式の始まりです。まずは 100km 達成した方から。拍手。1000km!! 拍手拍手。2,000km!! 感嘆の声!! 3,000km 拍手喝采。最長は 3,900km にも達した方がおり、脱帽です。

今回の表彰式では合計 18 名の方が表彰を受けました。皆さん、この日を待ちわびていたと思います。

### 考察

今回のあるけあるけでは、新たな試みとして途中で見学を入れることを実施しました。午前と午後の気分を区切るよい機会になり、かつ自分たちだけでは訪れることがないような場所も体験できてよかったです。コース選択によりませんが、今後もチャンスあれば取り入れるとよいと感じました。

お疲れ様でした。

報告者:遠藤 久

START  
さくら児童公園

# 第127回 市民あるけあるけ運動

## ○コース

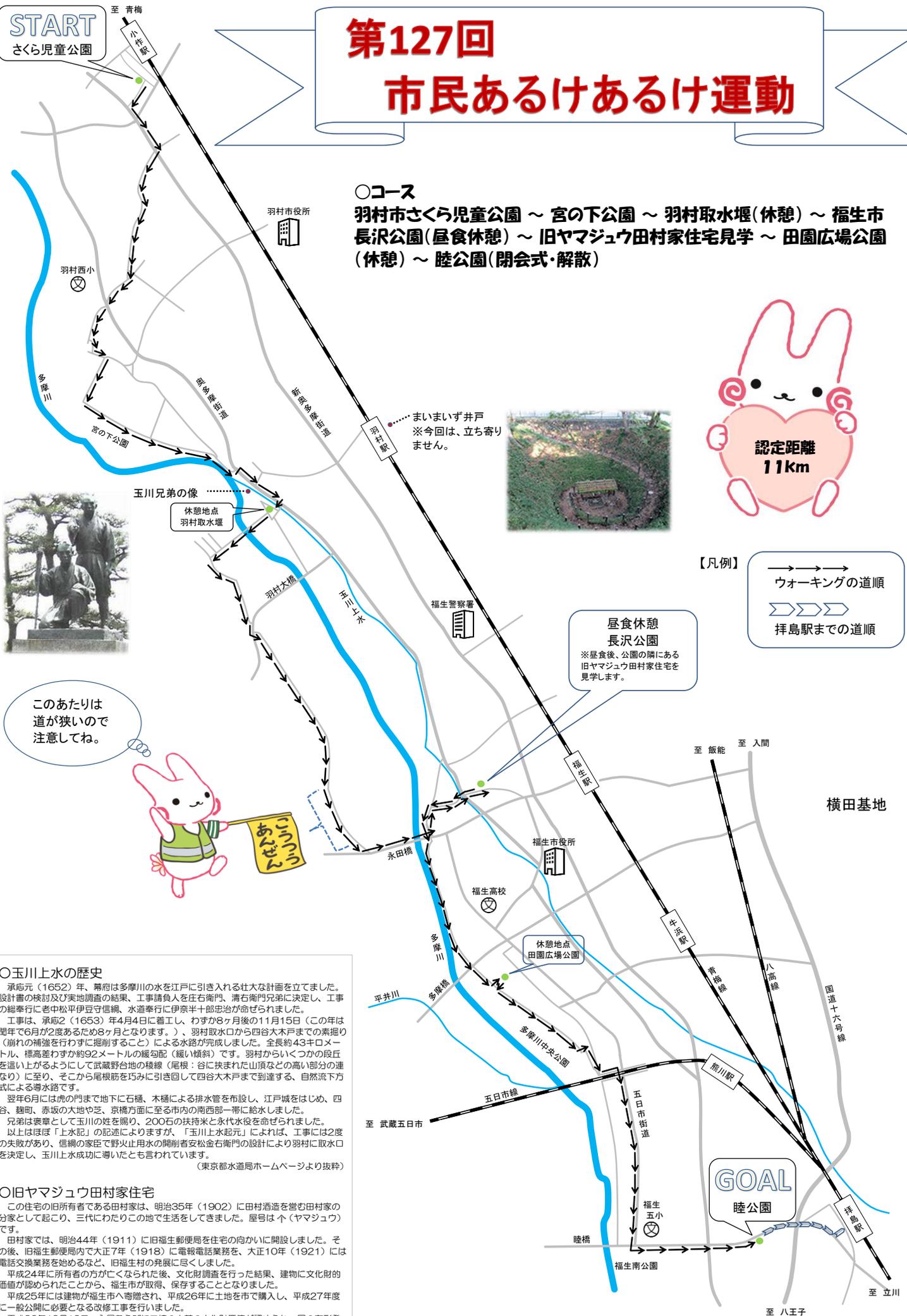
羽村市さくら児童公園～宮の下公園～羽村取水堰(休憩)～福生市長沢公園(昼食休憩)～旧ヤマジウ田村家住宅見学～田園広場公園(休憩)～睦公園(閉会式・解散)



【凡例】

→→→ ウォーキングの道順

⇨⇨⇨ 拝島駅までの道順



玉川兄弟の像



● まいまいず井戸  
※今回は、立ち寄りません。

昼食休憩  
長沢公園  
※昼食後、公園の隣にある旧ヤマジウ田村家住宅を見学します。

このあたりは道が狭いので注意してね。



## ○玉川上水の歴史

承応元（1652）年、幕府は多摩川の水を江戸に引き入れる壮大な計画を立てました。設計書の検討及び実地調査の結果、工事請負人を庄右衛門、清右衛門兄弟に決定し、工事の總奉行に老中松平伊豆守信綱、水道奉行に伊奈半十郎忠治が命ぜられました。工事は、承応2（1653）年4月4日に着工し、わずか8ヶ月後の11月15日（この年は閏年で6月が2度あるため8ヶ月となります。）、羽村取水口から四谷大木戸までの索掘り（崩れの補強を行わずに掘削すること）による水路が完成しました。全長約43キロメートル、標高差わずか約92メートルの緩勾配（緩い傾斜）です。羽村からいくつかの段丘を這い上がるようにして武蔵野台地の稜線（尾根：谷に挟まれた山頂などの高い部分の連なり）に至り、そこから尾根筋を巧みに引き回して四谷大木戸まで到達する、自然流下方式による導水路です。翌年6月には虎の門まで地下に石樋、木樋による排水管を布設し、江戸城をはじめ、四谷、麹町、赤坂の大地や芝、京橋方面に至る市内の南西部一帯に給水しました。兄弟は褒章として玉川の姓を賜り、200石の扶持米と永代水役を命ぜられました。以上はほぼ「上水記」の記述によりますが、「玉川上水起元」によれば、工事には2度の失敗があり、信綱の家臣で野火止用水の開削者安松金右衛門の設計により羽村に取水口を決定し、玉川上水成功に導いたとも言われています。（東京都水道局ホームページより抜粋）

## ○旧ヤマジウ田村家住宅

この住宅の旧所有者である田村家は、明治35年（1902）に田村酒造を営む田村家の分家として起こり、三代にわたりこの地で生活をしてきました。屋号は「ヤマジウ」です。田村家では、明治44年（1911）に旧福生郵便局を住宅の向かいに開設しました。その後、旧福生郵便局内で大正7年（1918）に電報電話業務を、大正10年（1921）には電話交換業務を始めるなど、旧福生町の発展に尽くしました。平成24年に所有者の方が亡くなった後、文化財調査を行った結果、建物に文化的価値が認められたことから、福生市が取得、保存することとなりました。平成25年には建物が福生市へ寄贈され、平成26年に土地を市で購入し、平成27年度に一般公開に必要な改修工事を行いました。平成26年12月19日、主屋ならびに二棟の土蔵の文化財価値が認められ、国の有形登録文化財（建築物）に登録されています。（福生市ホームページより抜粋）

## 18 第128回市民あるけあるけ運動

日時：令和元年11月2日（日） 9:30 受付開始、10:00 スタート、15:30 ごろ最後尾ゴール。

参加者：市民55名

スポーツ推進委員18名、スポーツ振興課職員4名、看護師1名

天候：快晴。風少なく小春日和で、あるけあるけに最適な気候でした。

コース：多摩モノレール上北台駅裏にある立野西公園に集合、メットライフドーム（西武ドーム）横を通りキノコ狩りに寄り、西武園で昼食、東大和公園を経て立野西公園に戻る多摩湖周回コース。認定距離12km。

はじめに

今年のコースは実地踏査の結果、距離の割にアップダウンが多く、従来よりも健脚向けコースと思われたので、ややゆっくりペースで進めることにしました。また、昼食場所の関係から昼食前の工程をやや多めにとり、12:45 昼食開始の予定で計画しました。

参加者の方々は、初めてですという方にも多く参加いただき、55名中約半数の24名が初参加とのことでした。

あるけあるけ開始

### (1) スタートから多摩湖周辺到達

まずは、上北台駅から芋窪街道を旧青梅街道めざし北上です。正面にこんもりと茂った森が見えてきました。そのあたりから多摩湖への丘陵が始まっていて、ちょうど青梅街道との突き当りです。

青梅街道を渡り右に折れしばらく行くと巖島神社の行き先矢印が見えてきます。ここを左折すると左手に神社の鳥居です。鳥居を左に見ながら直進すると、その先は東京サンショウウオの産卵場所です。ところが、10月12日に猛威を振るった台風19号の影響で、その貴重な場所はなんと、ピンポイントに土砂崩れが発生しており、市役所の職員の方々が復旧作業の真最中でした。道の脇を流れる小川が産卵場所だったのですが、土砂崩れて埋まっていました。早く元通りになってほしいものです。

重機が入って復旧しているので民家の敷地内の迂回路を通り、正規ルートにもどりました。そのあとは、本日第1回目の胸突き八丁。一気に登り、多摩湖の周回道路に入りました。

多摩湖周回道路は、歩道と自転車道が一緒になっており、時折通るロードレーサーに道を譲りつつ進みます。当日は風なく、日差しが強く、間もなく紅葉が始まるであろう森林の中を歩くのはとても気持ちのいいものでした。ほどなく、臨時トイレ休憩のできる場所に到着。希望者が数名いたので、一休みにしました。

身も軽くなったところで再出発。多摩湖を渡る橋が見えてみました。橋を右に下り、工事で水をせき止めてできた歩道を橋に沿って反対側まで歩き、再び橋まで登りました。本日第2回目の胸突き八丁です。登ると左に公衆トイレの建物が見え、その先の高架下が正規の第1休憩場所です。しばし糖分補給したり、体をほぐしたり。

### (2) キノコ狩り

さて、次はキノコ狩り目指して出発です。歩き始めて間もなく、メットライフドームの天井が見えてきました。ドームを右手に見ながら進みます。西武ドーム駅を右手に見つつ進み、西武山口線の高架を抜けると、本日3回目の登りです。そう、狭山湖畔霊園への登りです。軽自動車がゆを上げて登ってゆく道を一步一步登ってゆきました。正面に空が広がり、先が見えないところに来れば頂上はもうじき。霊園は丘陵の頂上にあるのです。歌手の尾崎豊さんをご存じでしょうか？彼の墓所はこちらにあるのです。私も今回初めて知りました、“生きること、それは日々を告白してゆくことだろう”（墓碑文言を引用）。

静かな霊園を抜け、霊園のトイレを借用して2回目（我々は3回目）のトイレ休憩です。

ここから、キノコ園までは15分ほどの道のり。出発し丘陵を下ってゆきます。前方には所沢の高層ビルが広がっています。途中で右に折れ、さらに下ると左手に樺の大木が見えてきます。さらに進むとキノコ狩りの矢印が。右に入ってゆくところの栗原キノコ園です。

いよいよキノコ狩りの開始。温室のような建物の中の棚に原木が置かれ、キノコが育っていました。説明を聞いた後、取り方はじめ。直接キノコを採るのは普段はなかなかできない経験なので、皆さん結構目がキラキラとして楽しそう。思わずたくさん取ったのではないかな。量り売りなので、取った分を計量し、支払いという運びになります。



### (3) 西武園横の昼食場所

時刻は既に12:00を回り、皆さんお腹が空いてきています。キノコ園を出発、昼食場所を目指します。この後、本日第4回目の登りがあるのですが、第2班は、参加者の状態を見て急坂を上がるのはやめ、緩い坂を上がるコースを選択することにしました。キノコ園から元の道に戻り、右折して水路沿いにすすみました。間もなく、西武園に通じる坂道に当たるので右折。長い長い登りの始まりです。

ダラダラした坂を登りきると、菊水亭の建物とコンビニが見えてきました。あと少しです。そのまま湖畔沿いに進み、右手に入っていくと多摩湖の土手が右手、左手には西武園の絶叫マシンの鉄塔が見えて、はい、昼食場所に到着！待ちに待ったお弁当を思い思いの場所でいただきました。

### (4) 後半スタート



さて、13:40に集合し後半の始まりです。多摩湖の東側は長い堤になっていて、堤の上は幅の広いまっすぐな遊歩道になっています。そこを南、東大和方面に向かいました。遊歩道からは御嶽山など奥多摩の山々が遠くに見渡せます。

歩いていると、大勢の人が西武園方面に向かって大きな望遠レンズを装着したカメラを据え付けて、なにやら待っています。聞いてみると、当日は入間の航空祭の開催日で、ちょうど多摩湖上空を通過するブルーインパルスの編隊を狙っているとのこと。我々も注目してみることにしました。一向に来る気配なく、そろそろ出発と思った瞬間、突如多摩湖西側から4機の機影が近付いてくるではありませんか！遅れていた一

機が堤上空で追いつき、5機編隊を組みなおして入間に向かってゆきました。一連の通過時間は十秒ちょっとです。迫力ある編隊飛行を見ることができ、皆大喜び。おまけを貰えた気分でした。

堤を渡りきると今度は長い下りです。下りきって通りを右折し、湖畔道路に入ります。道なりにしばらく行くと左手に鬱蒼とした森が見えてきます。東大和公園です。最後のトイレ休憩をとりました。

### (5) ゴールまで

さて、最後にもうひと頑張り。上北台を目指します。東大和公園を出て公園の池を右手に見つつ、再び湖畔道路にでました。奈良橋の交差点を渡ってさらに南に進みました。このまま進むと新青梅街道に出てしまい歩きにくいので、右に曲がって芝中住宅街の道路を新青梅街道と平行に進みました。車も少なく歩きやすい道でした。カワイ化粧品のビルが見えてきたので、左折し新青梅街道に向かいます。芝中住宅入口の交差点を渡り、カワイ化粧品ビルを通過した後右折すれば、立野西公園は正面です。モノレールの軌道も見えてきました。先着した方々の姿が見えます。ゴール！3班とも大きな事故なく完歩しました。お疲れ様。

### 表彰

今回は100km～3,700kmで10名、そして、なんと4,000kmの方も1名表彰されました。素晴らしい、聞けば40年かかったとおっしゃっていました。皆様おめでとうございます。

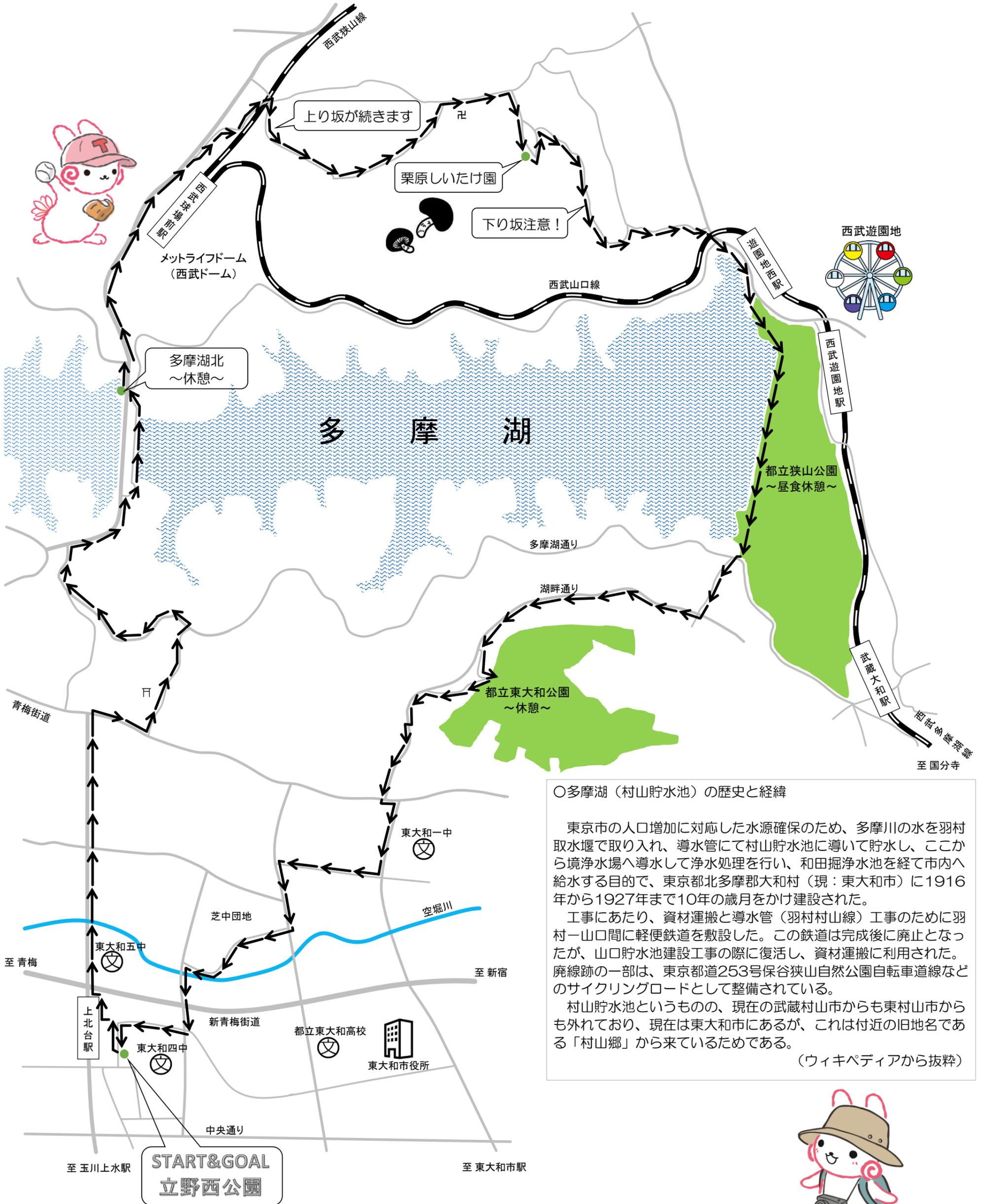
### 考察

今回のあるけあるけは特に天候に恵まれ、暑くなく寒くなく風も少なく、秋らしい一日に緑多い場所を踏破できてとても気持ちよかったです。おそらく参加者で最高齢と思われる93歳のおばあさんも最後まで元気に歩き切り、到着後聞くと足の痛みもなく全く大丈夫とおっしゃっていました。日ごろから歩きなれている方だと思います。あるけあるけ運動に参加することで、当日だけでなく日常的に体を動かしたり歩いたりすることで、そのおばあさんのように健康で強い体が得られるのだと思います。その意味で今回のようなあるけあるけは市民の健康維持・増進に一役かっているのだと思います。

今回はキノコ狩りを取り入れたせいか、初めて参加の方が半分くらいあり、企画の効果があったのではないかと思います。新たに参加された方々が次回も引き続き参加してくれるものと信じます。次回も魅力ある企画を提供してゆきたいと思います。

報告者:遠藤 久

# 第128回 市民あるけあるけ運動 コース図



○多摩湖（村山貯水池）の歴史と経緯

東京市の人口増加に対応した水源確保のため、多摩川の水を羽村取水堰で取り入れ、導水管にて村山貯水池に導いて貯水し、ここから境浄水場へ導水して浄水処理を行い、和田掘浄水池を経て市内へ給水する目的で、東京都北多摩郡大和村（現：東大和市）に1916年から1927年まで10年の歳月をかけ建設された。

工事にあたり、資材運搬と導水管（羽村村山線）工事のために羽村―山口間に軽便鉄道を敷設した。この鉄道は完成後に廃止となったが、山口貯水池建設工事の際に復活し、資材運搬に利用された。廃線跡の一部は、東京都道253号保谷狭山自然公園自転車道線などのサイクリングロードとして整備されている。

村山貯水池というものの、現在の武蔵村山市からも東村山市からも外れており、現在は東大和市にあるが、これは付近の旧地名である「村山郷」から来ているためである。

(ウィキペディアから抜粋)

